

ささりんどう



学校教育目標

感動し 共に喜びあえる児童の育成

児童数
男子 158名
女子 161名
合計 319名

校章の笹竜胆（ささりんどう）は、箕田源氏の旗印です

鴻巣市立箕田小学校 学校がより No.9 令和 2年 10月30日



「やれば、できる」

校長 齋地 満

秋の深まりを感じる季節となりました。2年生を皮切りに始まった校外学習や社会科見学も6年生を残すのみとなりました。行く先々で子どもたちが真剣に話を聞いたり、楽しく活動したりする姿を見て、体験や本物に触れる学びの大切さを改めて感じています。ホームページのブログで様子を伝えておりますので、お時間のある時にご覧ください。また、先日は市内陸上競技大会が行われ、6年生が活躍を見せてくれました。9月の残暑が厳しいころからの練習でしたが、その成果を発揮し、多くの子供たちが自己新記録を出すなど、有意義な時間を過ごすことができました。

さて、最近お笑い第7世代という言葉をよく耳にします。明確な定義はないようですが、20代から30代前半の芸人さんが該当するようです。一昔前は、「いじる」や「ディスる」といった言葉が表すように、他者を貶（おとし）めることで笑いをとる風潮がありました。しかし、この第7世代と呼ばれる中には、相手をほめたり認めたり、励ますなどこれまでとは、質の違った手法で笑いを誘う芸人さんがいます。中でも、ティモンディ高岸さんの「やれば、できる」という言葉に関心を持ち、校長講話で取り上げました。

高岸さんは、プロ野球選手を目指す野球少年でした。高校ではピッチャーとしても活躍しますが、甲子園出場を逃がしてしまいます。プロ野球チームからスカウトの話もあったのですが、大学で力をつけたいと進学をします。ところが、ケガをして夢を断念することになります。その後、チームを支える仕事を始め、これまで自分が周りの人たちにどれだけ支えられ、応援されてきたかを知り、今度は自分がみんなを応援して、恩返しをしようと考えようになります。そして、被災している方々を応援し励ます芸人さんの姿を見て、自分の進む道を決めたそうです。インタビューでは、「応援は目の前にいる相手の良いところを褒めること、その人自身が気づいていないかもしれない素晴らしい部分を伝えてあげたい。それが僕なりの応援なんです。」と話していました。また、「やれば、できる」という言葉は、出身高校の校歌にもある校訓で「やれば成功できる」ではなく、「やれば、ベストを尽くすことができる。挑戦こそ楽しいんだよ。」という意味があるそうです。高岸さん自身も未だに夢をあきらめておらず、時間があるときにはトレーニングを行い、入団テストを受けています。先日はプロ野球の始球式を務め、感極まって涙を流す姿がニュースで話題となりました。

子どもたちに話すにあたり、「やれば、できる」とは、できないことに挑むだけではなく、「自分のよさを知り、伸ばしていくこと」や「一步を踏み出して、新しい自分を見つけること」を含めた挑戦であると考えました。そして、仲間を本気で応援すると、自分にも元気や力が湧いてくる経験をしてほしいと思いました。最後に、子どもたちの感想をいくつか紹介します。（一部抜粋）

- ・挑戦をし続けることで、新しいことが見つかると思いました。（4年女児）
- ・「やれば、できる」といっている自分にも勇気づけているのだと思いました。（5年男児）
- ・結果はどうなってもやらなきゃ何も起きないことがわかりました。そこから「やること」の大切さを感じました。（6年男児）
- ・気持ちの伝わる応援をすることで、誰かに勇気と力を与えられることがわかりました。（6年男児）

※特によく書けていた感想を校長室前廊下に掲示しています。（2年男児・3年男児・4年女児・6年女児）